



日本銀行
支店長 那覇支店
小島 亮太 様

い出す。ついつい飲み過ぎて、翌朝、頭が痛いまま出勤したこともあります。そしてこの7月。東京から沖縄に赴任し、本場で泡盛に接する機会に恵まれた。そう言えば、前回の締め切りは9月5日。前

最初に私が泡盛に出会った場所は、おそらく東京・高円寺。当時、社会人1年目の新人が入る独身寮があつたのがこの街だ。上京して、この四畳半一間、風呂・トイレ共同のこの寮に入つた。高円寺には、

今でも有名な沖縄料理

屋があり、そこで初めて泡盛を飲んだよう

と思う。その後も、その

店には同僚と仕事帰りによく通つた。ビール

で乾杯した後、2杯目

から泡盛というのが定番の飲み方だつた。手頃な価格で飲んだり食べたりできたので、新人にとつてはありがたい店だつた。本格的なチャンブルーをはじめとする沖縄料理も、ここで初めて食べたようと思う。

仕事に慣れず、社会人としても半人前で、先輩から鍛えられる毎日だつた。そんな中、仕事帰りにその店に立ち寄り、その日職場であつた出来事を肴にして、泡盛を飲んで寮に帰つたのを思

リレー エッセイ 155 泡盛贊



た泡盛を指す

とのこと。歴

代 日銀・那覇

支店長のうち

の一人は、あ

る方のご自宅

に招かれて年

代物の古酒を

ご馳走になり、

豊潤そのものの味わいは忘れられない」と著書の中で記している。

「あのトロリとした喉越しと、豊潤そのものの味わいは忘れられない」と著書の中で記している。

高円寺で新人の時に泡盛を飲んでから、四半世紀以上。赴任直後にお引き受けした、このリレー エッセイも、何とか書き終えられそうだ。今夜は那覇の街に繰り出して、泡盛——できれば古酒——で脱稿祝いということにしよう。